

西洋史籍講読3C－Ⅱ

科目ナンバリング HEA-214
選択必修 2単位

能勢 和宏

1. 授業の概要(ねらい)

現在のヨーロッパがどのようにして形成されていったのか、ヤン＝ヴェルナー・ミュラー『試される民主主義』を読み、理解します。著者のミュラーは1970年生まれのドイツ人政治学者・歴史学者で、今世界で注目されている研究者のひとりです。20世紀のヨーロッパが2度にわたる大戦を経験したことはご存知の通りです。なぜ19世紀に自由主義が確立したにもかかわらず、ヨーロッパは戦争に突入したのだろうか。そして戦争を経て、何が変わり／変わらなかったのかを検討していきます。授業は2～3名の受講者によるプレゼンテーションと、受講者全員でのディスカッションです。補足的に映画等の映像資料を用いて、20世紀ヨーロッパのイメージを深めます。

2. 授業の到達目標

一冊の学術書を隅々まで読み抜く経験を得る。
西洋史についての識見を獲得する。
効果的な発表方法を修得する。

3. 成績評価の方法および基準

担当箇所をレジュメにまとめて報告をする：25%
レポートの提出：25%
議論への積極的な参加姿勢：50%

4. 教科書・参考文献

教科書
ヤン＝ヴェルナー・ミュラー著、板橋拓己、田口晃監訳 『試される民主主義：20世紀ヨーロッパの政治思想(上)』 岩波書店
ヤン＝ヴェルナー・ミュラー著、板橋拓己、田口晃監訳 『試される民主主義：20世紀ヨーロッパの政治思想(下)』 岩波書店

5. 準備学修の内容

授業で講読する該当箇所を事前に必ず読み込み、不明箇所を明らかにするとともに、自分自身の見解を用意して授業に臨む。
報告担当ではない受講者も、ディスカッションに参加する準備をする。
授業で用いる書籍は指定図書コーナーに配架されているので、事前学習に用いて下さい。

6. その他履修上の注意事項

本を読んでいてわからない箇所があるのは当然のことです。決して恥ずかしいことはありません。教員を含めた受講者全員で疑問を共有し、みんなで理解を深めるような授業にしていきたいと思います。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス：テキストについて解説し、発表の分担を行う。
- 【第2回】 20世紀ヨーロッパについての映画鑑賞(『帰ってきたヒトラー』)：20世紀の政治・社会思想の連続性を捉える。
- 【第3回】 第1章「溶解した大衆」を読む(前半)：第一次世界大戦の思想的影響を知る。
- 【第4回】 第1章「溶解した大衆」を読む(後半)：ロシア革命の意味を知る。
- 【第5回】 第2章「大戦間の実験」を読む(前半)：社会民主主義の発展を知る。
- 【第6回】 第2章「大戦間の実験」を読む(後半)：革命後のソ連の展開と共産主義を知る。
- 【第7回】 第3章「ファシストの主体」を読む(前半)：イタリアにおける展開を中心にファシズムとは何かを知る。
- 【第8回】 第3章「ファシストの主体」を読む(後半)：ドイツにおける展開を中心にファシズムとは何かを知る。
- 【第9回】 第4章「再建の思想」を読む(前半)：第二次世界大戦後に発展するキリスト教民主主義を知る。
- 【第10回】 第4章「再建の思想」を読む(後半)：自由主義と社会主義の戦後のあり方を知る。
- 【第11回】 第5章「異議申し立ての新時代」を読む(前半)：学生運動によって引き起こされた政治の変容を知る。
- 【第12回】 第5章「異議申し立ての新時代」を読む(後半)：学生運動の帰結とその波及的影響を知る。
- 【第13回】 第6章「反政治、そして歴史の終わり?」を読む(前半)：「大きな物語」への不信感の高まりを知る。
- 【第14回】 第6章「反政治、そして歴史の終わり?」を読む(後半)：新自由主義の台頭を知る。
- 【第15回】 まとめ：これまでのテキストの内容を再検討する。